

平成21年度 自己評価表

鳥取県立鳥取工業高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	技術を研ぎ、身体を鍛え、心を磨くことをとおして、優れた知性や創造性を身に付けたくましい力と、感動したり他者を思いやるあたたかな心を兼ね備えた健全で個性豊かな人材の育成をめざす。	今年度の 重点目標	1. 確かな学力の育成 2. 豊かな人間性の育成 3. キャリア教育の充実と生徒の進路実現 4. 地域や産業界とのパートナーシップの確立
---------------------------	--	----------------------	---

評価項目	現状	年度 具体項目	初 具体目標	具体方策	評価結果 ()月		
					経過・達成状況	評価	改善方策
1. 確かな学力の育成	①生徒アンケート(昨年度実施)で「授業の工夫がなされている」の割合が77%であった。 ②工業科の実習を伴う科目について学習意欲は高いが、座学の学習内容の定着にはばらつきがある。	①授業等の充実による学力の定着	①わかりやすい授業をめざし、学習内容の精選、教材の工夫と共有化を図り、効果的な指導力の向上を図る。 ②授業評価アンケートを通して生徒の声を受けとめ、授業改善につなげる。	①授業等で生徒の理解度に注意を払いながら、個に応じた指導を工夫する。 ②公開授業を各科・各教科1名ずつ実施する。 ③校内外の試験などを通して生徒の学習実態を把握・分析し学習意欲の向上を図る。			
	①生徒の自宅学習時間は二極化の傾向があり、まだ不十分である。 ②進路意識の定着については、不十分な部分がある。 ③委員会活動は活性化してきているが、活発でない委員会もある。 ④運動部が活発であるが、文化部の活動は概して低調である。	②主体的な学習態度と実践力の育成	①自己理解を深めさせ、生活目標・進路目標を確立させる。 ②自宅学習時間が理数工学科では2時間以上、工業科では1時間以上となること、30分未満の生徒の割合が3割未満となることを目標とする。 ③特別活動・委員会活動・部活動を通じ生徒の自主性・実践力を育成・伸長する。	①学習習慣の定着を図る。 ②授業・考査ごとに適宜生徒自身に自己点検・自己評価をさせる。 ③保護者との連携を深めるとともに、個別指導を徹底する。 ④委員会活動を各分掌・各学年で指導・支援し、生徒と職員が一体となって取り組むよう努める。			
2. 豊かな人間性の育成	①生徒一人ひとりの思いを十分に理解した教育活動を行うために、生徒と教職員の信頼関係を築く必要がある。 ②個々の生徒を理解したうえで指導・助言を行ったり、人格形成のための適切な援助を行うために、学校と家庭との一層の情報共有が必要である。	①互いを尊重する態度と社会性の涵養	①日常的に生徒と関わる時間の確保に努め、個々の生徒の良さを認めながら意欲喚起を図る。 ②教職員が研修等を通して自己を振り返り、学ぶ姿勢を持ち続けるとともに「全教科・全領域での人権教育」を実践する。	①「Q-U調査」を全生徒を対象に年2回実施し、支援を要する生徒の把握に努め、分析結果から望ましい集団づくりを推進する。 ②差別解消に向けて教職員の一人一研修参加100%をめざす。 ③朝の交通安全指導をとおして、生徒と教職員との間に明るい人間関係をつくり、コミュニケーション能力を育てるよう、あいさつ指導を推進する。 ④学校と家庭との連携を密にして課題の早期発見と迅速な対応に努める。			
	①自ら学び課題を解決していこうとする力や豊かな心をさらに育成していく必要がある。 ②豊かな人間性を育むため、他者との多様な関わりを大事にするとともに、読書、地域貢献活動を奨励し、多くの気づきやこれからの生き方のヒントを得させる必要がある。	②健全な身体と社会貢献精神の育成	①読書活動をおととして豊かな心をはぐくむため、年間の生徒一人当たりの貸出冊数が前年度比3%増となることをめざす。 ②各種ボランティア活動の年間参加率が昨年度以上となるよう努める。 ③命の教育である性教育に関する指導時間を年間2時間以上確保する。 ④TEAS(鳥取県版環境管理システムII種)で掲げている今年度の環境改善目標の達成をめざす。	①図書室を利用した授業実践や企画展示、図書館便り等の広報活動に努めることで図書室の利用を促進する。 ②各種ボランティア活動への積極的参加を推奨する。 ③性教育に関する講演会やLHRをとおして、性への正しい認識を深めさせる。 ④管理美化委員の積極的活用を図るとともに、環境宣言の周知徹底を図り全生徒の取り組みとなるよう努める。 ⑤健康づくりのために食の環境整備を行う。			
3. キャリア教育の充実と生徒の進路実現	①資格・検定の受験を奨励し継続的な指導に努めているが、生徒の意欲に差がある。 ②専門教科の授業で学んだ知識・技術を応用していくことの大切さや楽しさを実感させるよう努めている。 ③社会人講師等による指導を実施し、ものづくりコンテスト等の各種競技会への積極的参加を促している。	①専門的な知識・技術の習得	①各種資格・検定への受験を奨励する。 ②ものづくりの楽しさを実感させ、専門教科への興味・関心を育む。	①資格検定の年間スケジュールを提示し、資格取得や検定合格のための放課後補習や勉強会の指導体制を整え実施する。 ②検定やものづくりコンテスト等の実技指導を充実させ、各種競技会へ挑戦する意欲を醸成し、学んだ知識や技術を発展的な取り組みに繋げる。 ③各科毎の課題研究発表会を通して、引き続き探究心や表現力を養成していく。			
	①職業観や勤労観の育成を図り、進路目標を明確にするため、3年間を見通した進路指導を行なっている。 ②基本的な生活習慣の確立をめざし、服装指導や挨拶指導とあわせて朝の交通安全指導を全職員が実施し、遅刻者数は顕著な改善が見られた。しかし、生徒の一部に挨拶が返せない、注意を繰り返さないとルールを守れないなどの状況が見られる。	②職業意識の育成と進路指導の徹底	①計画的な進路指導を行ない、自己の適性を理解した進路選択ができる力を育む。 ②基本的な生活習慣やマナーを育成するとともに、社会の一員としての自覚と社会性を身に付けさせる。	①企業見学会、インターンシップ、進路LHR、進路説明会、諸検査等により生徒の進路意識の高揚を図り、自発的に進路決定できる力を養う。 ②補習等を充実させ学力向上をはかるとともに、希望者に対して進学模試、作文模試、公務員模試等を実施し個々の進路に応じた適切な指導を行なう。 ③全職員が継続して生活指導を行う。また、遅刻・早退・欠席防止のため保護者への連絡を密にするるとともに、全職員による朝の登校指導を引き続き実施する。			
4. 地域や産業界とのパートナーシップの確立	①インターンシップの期間延長などの充実を図った。 ②企業との共同研究に積極的に取り組んだ。 ③企業見学を1年生から実施した。 ④各科職員による企業訪問を実施した。	①地域や産業界との連携強化	①「地域産業の担い手育成プロジェクト」が最終年を迎え、実りある結果が出るよう取り組む。	①「地域産業の担い手育成プロジェクト」の各メニューを推進するとともに、鳥工版デュアルシステムを新規実施する。			
	①「テクノボランティア」「鳥工TEC」を実施した。 ②昨年度、学校HPをリニューアルした。 ③1年間のPTA行事の参加者の割合が目標を達成した。 ④「ものづくり教室」「出前授業」「中学生体験入学」をとおして中学校の工業高校に対する理解が深まった。	②開かれた学校づくりの推進	①地域住民・中学生に対して、鳥工をPRしていく。 ②学校HPの更新により最新の情報を発信するよう努める。 ③学年別懇談会、学科別懇談会等の1年間のPTA行事の参加率が昨年度以上となるよう努める。	①各科で研究、製作したものを文化祭の「鳥工TEC」で展示し、地域住民に紹介する。 ②課題研究発表会を学校外で実施し、広く県民に公開する。 ③近隣中学生を対象とした「ものづくり教室」や小学生を対象とした「科学遊び広場」を実施し、ものづくりの魅力を発信する。 ④学校HP等で学校の取り組みを積極的に広報する。 ⑤学年別懇談会、学科別懇談会等の内容を工夫する。			

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:変化の兆し D:まだ不十分 E:目標・方策の見直し

[100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]